

科目名	総合事例演習	担当教員	三宅 環※ 久保 勝幸※ 佐々木 努※ 山田 恭平※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ 泊り 由希子※ ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	--------	------	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR32EF	②					

科目概要	本講座では、作業療法の対象となる疾患について、評価～治療計画～治療をどのように展開するか学習する。演習では既習の知識を統合・応用し、グループワークとプレゼンテーションを中心に、様々な思考過程について理解を深める。
学習目標	各疾患の典型例について障害構造を理解し、評価計画・ICFによる分類・治療計画を立案できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	身障事例演習概論1	オリエンテーション 事例演習概論	作業療法における事例研究の位置づけを説明できる	三宅
2	身障演習1	身体障害系疾患に対する評価計画作成1	演習を通し、評価計画を立案できる	三宅
3	身障演習2	身体障害系疾患に対する評価計画作成2	演習を通し、評価計画を立案できる	三宅
4	身障演習3	身体障害系疾患に対する評価計画作成3	演習を通し、評価計画を立案できる	山田
5	身障演習4	身体障害系疾患に対する評価計画作成4	演習を通し、評価計画を立案できる	三宅
6	身障プレゼン1	プレゼンテーション：評価計画1	発表とフィードバックを通し、評価計画を作成できる	三宅 山田
7	身障プレゼン2	プレゼンテーション：評価計画2	発表とフィードバックを通し、評価計画を作成できる	三宅 山田
8	身障講義1	評価計画の立て方	身体障害領域の評価計画を作成できる	山田
9	身障演習5	身体障害系疾患に対するICFによる焦点化1	演習を通し、ICFによる焦点化ができる	三宅
10	身障演習6	身体障害系疾患に対するICFによる焦点化2	演習を通し、ICFによる焦点化ができる	三宅
11	身障プレゼン3	プレゼンテーション：ICFによる焦点化	発表とフィードバックを通し、ICFによる焦点化の理解を深める	三宅 山田
12	身障講義2	ICFによる焦点化、目標設定の考え方	ICFによる焦点化、目標設定の理解を深め、自ら立案できる	三宅 山田
13	精神事例演習概論	精神障害領域に対する事例研究の概要と評価計画	精神科作業療法における事例研究の意義と評価計画の要点を説明できる	松田 泊り

14	精神演習1	精神障害領域に対する評価計画作成	演習を通し、評価計画を立案できる	松田 泊り
15	精神プレゼン1	プレゼンテーション：評価計画（精神科作業療法）	演習を通し、評価計画の理解を深める	松田 泊り
16	精神演習2	評価計画の作成方法（精神科作業療法）	評価計画を作成できる（精神科作業療法）	松田 泊り
17	精神演習3	精神障害領域に対するICFによる焦点化	演習を通し、ICFによる焦点化ができる	松田 泊り
18	精神演習4	精神障害領域に対するICFによる焦点化	演習を通し、ICFによる焦点化ができる	松田 泊り
19	精神プレゼン2	プレゼンテーション：ICFによる焦点化	演習を通し、ICFによる焦点化の理解を深める	松田 泊り
20	精神演習5	目標設定（精神科作業療法）	長期目標・短期目標を設定できる（精神科作業療法）	松田 泊り
21	維持期の事例1	事例提示 演習：評価計画の立案	維持期の事例に対する評価計画が立案できる	久保
22	維持期の事例2	評価結果提示 演習：ICFによる評価結果の整理	維持期の事例の評価結果をICFにより整理できる	久保
23	維持期の事例3	演習：評価結果の統合と解釈	維持期の事例の評価結果を統合し解釈することができる	久保
24	維持期の事例4	演習：課題抽出・目標設定・プログラム立案まとめ	維持期の事例に対して、課題を抽出し、目標を設定し、プログラムを立案できる。 維持期の事例に対する作業療法の目的と内容の特性について説明できる。	久保
25	発達障害領域の事例1	事例提示 演習：評価計画の立案	発達障害領域の事例に対する評価計画が立案できる	佐藤
26	発達障害領域の事例2	評価結果提示 演習：ICFによる評価結果の整理	発達障害領域の事例の評価結果をICFにより整理できる	佐藤
27	発達障害領域の事例3	演習：評価結果の統合と解釈	発達障害領域の事例の評価結果を統合し解釈することができる	佐藤
28	発達障害領域の事例4	演習：課題抽出・目標設定・プログラム立案まとめ	発達障害領域の事例に対して、課題を抽出し、目標を設定し、プログラムを立案できる 発達障害領域の事例に対する作業療法の目的と内容の特性について説明できる	佐藤
29	記録と日誌演習1	臨床実習を想定して模擬的に記録と日誌を記載し振り返りを行う	記録についての問題点・注意点を学習し、適切な記録を作成することができる	三宅 松田 泊り
30	記録と日誌演習2	評価実習の実際の記録、情報から振り返りを行う	記録についての問題点・注意点を学習し、適切な記録を作成することができる	三宅
評価方法		課題提出（100%）		
課題に対するフィードバック		講義中、講義終了後に適宜行い、課題に関してはオフィスアワーで対応する。		
教科図書		配付資料		
参考図書		国際生活機能分類－国際障害分類改訂版：厚生労働省ホームページ (http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html)		
学習の準備		予習：身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域・高齢領域の代表疾患の病態等を理解しておくこと 復習：講義での不明箇所を調べ、理解を深めること（合計45分）		

<p>オフィスアワー</p>	<p>講義当日の 16 時 30 分～17 時 30 分、講義翌週当日の 16 時 30 分～17 時 30 分 ほか各担当教員から連絡する。</p>
<p>担当教員欄に※印を 付した教員の実務経 験</p>	<p>三宅環・佐々木努・山田恭平は、民間病院で身体障害系疾患における治療計画について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。</p> <p>松田竜幸・泊り由希子は、民間病院で精神障害領域における治療計画について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。</p> <p>久保勝幸は、民間病院で維持期における治療計画について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。</p> <p>佐藤拓也は、民間病院で発達障害領域における治療計画について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。</p>